

○ やまぐちイクメン応援表彰の受賞者（5名）

区分	氏名	取組内容
最優秀賞	もりわけ なるあき 森分 成昭 （山口市）	○育児に積極的に関わりたい思いから、職場において育休取得第1号となり、育休が取得しやすい職場に変えた。 ○育児アプリを活用して夫婦で成長の記録を共有。些細な変化にも気づき、言葉が話せない子どものことを常に考えて行動している。 ○家庭菜園が趣味で無農薬野菜を使って離乳食を作る、得意な裁縫でカーテンを作るなど、何事も「してあげた感」を出すことなく、さりりとこなしている。
優秀賞	いしい ゆういち 石井 裕一 （岩国市）	○共働きのため、妻とコミュニケーションをとりながら、手の空いている方が率先して家事、育児を行っている。 ○職場の上司、同僚とコミュニケーションをとり業務計画を立てることで定時に業務が完了するよう段取りしている。 ○子どもにもできることを分担してもらうことで、一人一人が家族に必要な存在だと感じられるように育てている。
	いわもと てるお 岩本 旭央 （山口市）	○妻の良き理解者であり、家事も育児も全力投球で行っている。 ○自分の子だけでなく、近所の子や両親など周りのすべての人々との交流を大切にしている。 ○家にあるダンボールや材料を使って遊びを工夫することで子どもの創造力を伸ばしている。
	おおにし よしのり 大西 義紀 （宇部市）	○2人目の出産を契機に子育て環境を優先するため、東京からのUターン転職を決断する。 ○子どものために家族を題材にした算数問題を作って勉強させたり、子どもと共に自然体験を楽しんだり、4人の子どもの父親として子育てに奮闘している。
	こいずみ みつあき 古泉 光章 （下関市）	○妻を気遣い、定時前出勤・定時退社・昼休憩での一時帰宅を実践して子育てに関わっている。 ○会社で初の育休を取得し、子どもたちに向き合うことで、夫婦としての連携や信頼を深めており、一緒に子育てをしていくパートナーや戦友のように感じる心強い存在である。